

ボルグワーナー、チェリー(奇瑞汽車)との協業を拡大し、 グローバル成長に向けて先進的な全輪駆動製品を供給へ

- *ボルグワーナーのトルク・オン・デマンド式メカニカルロック付トランスファーケースが、チェリーのピックアップトラックに採用予定*
- *ボルグワーナーの第6世代クロスホイールドライブシステムが、チェリーのSUVに採用予定*
- *チェリーとのパートナーシップは、同社の国内および海外市場での成長を支援*

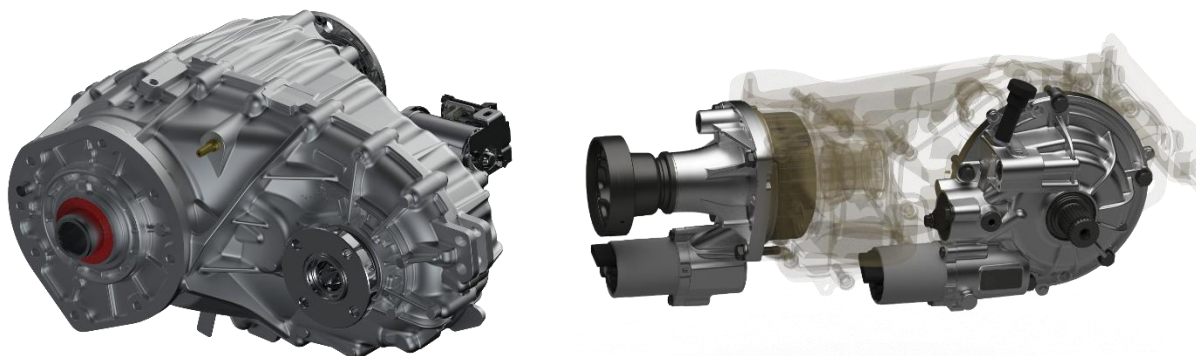
革新的で持続可能なモビリティソリューションを提供するグローバル製品リーダーのボルグワーナー (NYSE: BWA/本社: アメリカ合衆国ミシガン州アーバンヒルズ、社長兼最高経営責任者: ジョセフ・ファドール/ Joseph Fadool) は、中国の自動車メーカーであるチェリー (Chery、奇瑞汽車) と複数の契約を締結し、トルク・オン・デマンド式メカニカルロック付トランスファーケース (Mlock TOD) および第6世代クロスホイールドライブ (XWD) システムを含む先進的な全輪駆動 (AWD) 技術を供給することを発表しました。量産開始は2027年に予定されており、両社のパートナーシップをさらに強化するものとなります。

ボルグワーナーは、チェリーのピックアップトラック向けに Mlock TOD トランスファーケースを供給します。このトランスファーケースには、当社独自の HY-VO® ドライブラインチェーンが採用されており、高速走行時の効率を向上させています。また、2輪駆動ハイレンジ (2H) モードおよびオートモードに対応し、フルタイム 4WD システムと比べて舗装路での燃費を改善します。オートモードでは、安全性、ハンドリング、操縦安定性が向上します。さらに、メカニカルロックモード (4WD ハイレンジロックおよび 4WD ローレンジロック) により、優れたオフロード性能、登坂能力、リカバリー性能を発揮します。

加えて、ボルグワーナーはチェリーの SUV モデル向けに、最新の第6世代 XWD システムを供給します。この新世代 XWD には、第6世代カップリングおよび第6世代電子制御式リミテッドスリップデフが採用されています。さらに、ボルグワーナー独自の特許技術であるモジュラーピストンポンプ、ブラシレス DC モーター、および高集積型コントローラーを統合し、重量・コスト・複雑性を削減しつつ、効率を大幅に

向上させています。正確なリミテッドスリップ制御により優れた全輪駆動性能を発揮し、車両の安定性、ハンドリング、トラクション性能をさらに高めています。

ボルグワーナーの副社長でドライブトレイン・モールシステムズ事業部長のイザベル・マッケンジーは、「チェリーとの協業は、ボルグワーナーの幅広い製品ポートフォリオと技術的専門性を活かし、同社の中国およびグローバル市場での成長を支援するものです」と述べています。



ボルグワーナー、チェリー(奇瑞汽車)との協業を拡大し グローバル成長に向けて先進的な全輪駆動製品を供給へ

ボルグワーナーについて

ボルグワーナーは、130年以上にわたり、モビリティのイノベーションを成功に導く、変革的なグローバル製品リーダーであり続けています。すべての人にとってよりクリーンで健康的、かつ安全な未来を築くために、世界のeモビリティへの移行を加速させています。

URL: <https://www.borgwarner.com/home>

本リリースには、経営陣の現在の見通し、期待事項、試算、推定に基づく1995年米国私募証券訴訟改革法(Private Securities Litigation Reform Act)で想定された、将来予測に関する記述が含まれている場合があります。「見込む」、「考える」、「継続する」、「可能性がある」、「目的とした」、「影響」、「試算する」、「評価する」、「期待する」、「予測する」、「目標」、「指針」、「取り組み」、「意図する」、「場合がある」、「見通し」、「計画する」、「潜在的」、「予見する」、「推定する」、「追求する」、「目指す」、「すべきである」、「目標とする」、「の場合」、「でしょう」、「かもしれない」、およびこれらの語句の変化形や類似のものは、かかる将来予測に関する記述であることを意図しています。さらに、本リリースに含まれる、または参照する形で盛り込まれる、歴史的事実に関する記述を除く、当社の財務状況、事業戦略、および当該戦略を実施するための方策(事業の変更、競争力、目標、事業およびオペレーションの拡大・成長、計画、将来の成功への言及、その他の事項を含む)に関する、当社が将来発生すると期待または見込むすべての記述は、将来予測に関する記述です。最近提出されたフォーム10-K(「Form 10-K」)年次報告書の第7項「重要な会計方針および試算(Critical Accounting Policies and Estimates)」に記載されているような会計上の試算は、性質上、将来予測に基づくものです。すべての将来予測に関する記述は、当社の経験、当社の歴史的動向に関する解釈、現在の状況、予想される将来の展開に関する認識、および現況において適切と考えられるその他の要因に照らして当社が行った仮定および分析に基づいています。将来予測に関する記述は業績を保証するものではなく、当社の実際の業績は、将来予測に関する記述において表現、推定または示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。

本リリースの発行日現在における事柄を述べたものであるこれらの将来予測に関する記述を過度に信頼すべきではありません。将来予測に関する記述はリスクや不確実性を伴うものであり、その多くは予見困難であり、一般的に不可抗力によるものであるため、実際の結果は将来予測に関する記述で表明、予測、または示唆されているものとは大きく異なる可能性があります。これらのリスクおよび不確実性の代表的な例として、次のものがあげられます。当社または当社の顧客に影響を及ぼす供給の

混乱、商品の入手可能性および価格設定、ならびにこれらのコストに関する顧客との交渉において期待されるレベルの回収率を達成できないこと；受託製造会社（OEM）の顧客を含む既存および新規の競合他社による競争上の課題；急速に変化する技術、特に電気自動車に関連する技術的課題、およびそれに対応する当社の技術革新能力；電気自動車に対する需要および電気自動車の売上成長を予測することの難しさ；戦争やその他の地政学的紛争によって引き起こされる世界経済の潜在的な混乱；適切な条件で買収対象を特定し、買収を完了する能力；買収によって期待される利益を適時に実現できない可能性；2023年に旧燃料系システム部門とアフターマーケット部門を非課税分社化して別個の株式公開企業としたことによる意図した利益が得られない可能性；取得事業を迅速かつ効率的に一体化できない可能性；取得事業に関する未確認または推測不能な債務の可能性；自動車およびトラック生産への依存性（いずれも景気に大きく左右され、混乱の影響を受けやすい）；大手OEM顧客への依存性；一部のOEM顧客における将来的なストライキの影響および当該OEM顧客の対処法；金利および外国為替レートの変動；情報システムへの依存性；世界的な経済環境の不確実性；様々な申し立てに関する訴訟を含む既存または将来の法的手続き、または関連する訴訟を含む政府による調査の行方；当社が事業を行っている国における税金や関税を含む法律や規制の将来的な変更；将来起こりうる買収または譲渡による影響；当社が証券取引委員会に提出する報告書（直近のForm 10-Kおよび/またはForm 10-Qの第1A項「リスク要因」）に記載されたその他リスク、など。当社は、期待事項の変更または記述の根拠となる事象、条件、状況、仮定の変更を反映するために、本発表文に含まれる将来予測に関する記述のいずれかを更新する、または更新・改訂内容を公表する義務を負いません。

<報道に関するお問い合わせ>

ボルグワーナー広報事務局 中込、浜辺

TEL: 090-7739-3601 (中込)、080-2032-2924 (浜辺)

EMAIL: borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp